

# 事前の備え

災害が起きた後だけではなく、起きる前にも日頃から備えをしておかなければなりません。普段の生活の中で、安全な避難先とルートを考えておきましょう。また、被害を抑えるため、台風や大雨が来る前に、あらかじめ家のまわりの点検・整備や簡易水防の作成を行うことが大切です。

## 安全な避難先とルートの確認



避難所までの経路は、あらかじめ自分たちで決めておきましょう。特に、はん濫しやすい小川や土砂災害の危険性のある土地などを考慮しましょう。また、実際に歩いて、安全に通行できるか確認しておきましょう。

## 家のまわりの点検・整備



家の前の側溝が詰まっていないか確認し、水はけを良くしておきましょう。また、風で飛ばされる植木鉢やゴミ箱などは固定するか、家の中などに移動させておきましょう。窓や雨戸はしっかりとカギをかけ、必要ならば外から板を打ち付けて補強しましょう。

## 非常持出品の事前準備



被害によっては、避難を余儀なくされることもあります。避難する時に持ち出す『非常持出品』を事前に準備し、チェックリストで確認しておきましょう。特に、常用薬など無くてはならないもので、他の人が持っていないものには注意が必要です。

主な非常時持出品は次の通りですが、詳しくは宇和島市防災マップを確認してください。

### 飲料水

ペットボトル入りは持ち運びに便利。



### 懐中電灯

停電時や夜間の避難には必需品。



### 救急薬品

消毒薬やばんそうこうなど。持病のある人は常用薬も。



### 非常食

調理せずに食べられる物。賞味期限をチェックして定期的に交換を。



### 携帯ラジオ

F M、A Mの両方聴けるタイプを。予備の電池も忘れずに。



### ヘルメット (防災ずきん)

飛来物や落下物、転倒事故から頭部を守るため。



### その他

現金(公衆電話用の小銭も用意)、オイルライター、身分証明書のコピー、軍手、衣類など。



# 洪水時における避難の心得

万一、洪水の危険が迫ってきたら冷静に判断しながら安全な避難を心がけてください。

## 一、正確な情報収集と早めの避難を！

テレビやラジオ等で最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意し、危険を感じたら早めの避難をすることが重要です。市役所や消防署からの呼びかけがあった場合には速やかに避難してください。



## 二、動きやすい服装と集団での避難を！

自宅の周りが浸水していなくても、避難場所への途中で道路などが浸水していることも考えられます。そのため、避難するときは持ち物はリュックに入れ、手は自由にし、運動靴をはくなど動きやすい服装をし、2人以上での行動を心がけましょう。



## 三、はん濫した水は勢いが強く、深さ 50cm でも危険！

洪水によりはん濫した水は勢いが強く、水深が 50cm あると大人でも歩くのが困難です。そのため、避難のための十分な時間が確保できない場合や浸水深によっては、緊急避難として高い堅牢な建物や自宅の2階などに待避することも必要です。



## 四、はん濫した水は濁っており、水面下は危険！

洪水によりはん濫した水は土砂が流れ込んでいるため茶色く濁っており、水面下の水路や道路の溝、ふたが開いたマンホールの穴が見えません。やむを得ず水の中を移動するときは、長い棒で足元の安全を確認しながら移動しましょう。



## 五、車での避難は危険性が高いため、控える！

車での避難は緊急車両の通行の妨げになるだけでなく、浸水した場所で動けなくなることや、川や水路などへの転落、渋滞により避難ができなくなるなど、大変危険です。特別な場合を除き、車での避難は控えましょう。



## 避難に関する情報の種類とその対応

災害の危険性が高まった際に、市から防災ラジオ、屋外放送設備、広報車等により住民の皆さまへ次の避難に関する情報が伝達されます。必要な対応を心がけましょう。

高

### 避難指示 (緊急)

- まだ避難が済んでいない場合は、ただちに避難してください。
- 避難が危険な状況で屋内に残っている場合は、屋内で安全を確保してください。

### 避難勧告

- 一刻も早く避難してください。

### 避難準備・高齢者等避難開始

- 気象情報等に注意を払い、避難の必要について検討してください。
- 避難が必要と判断する場合は、非常持出品など避難の準備をしてください。
- 要配慮者(高齢者等)がいる家庭、あるいは危険な地域に住んでいる方は、早めに避難してください。

災害の危険性

低